

◆学年優勝杯
福生第一小学校5年生 齊藤 沙奈さん

小五 齊藤 沙奈

星の世界

◆文部科学大臣賞
福生第二中学校3年生 齊藤 愛奈さん

中三 齊藤 愛奈

自然の神秘

第36回全国学生書写書道展において、席書の部4、732点もの応募作品の中から、齊藤愛奈さんの作品が、最高賞である文部科学大臣賞を受賞しました。また妹の齊藤沙奈さんの作品も公募の部5、320点の作品の中から学年優勝杯という好成績を収め、姉妹そろって快挙を成し遂げました。

全国学生書写書道展で受賞!!

子ども読書活動推進事業 病院への本の貸出サービスを始めました!

福生病院の小児病棟に「みにみにとしょかん“ぶっくん”」を開館しました。入院している子どもたちのために、幼児から小学校中学年向けの本を、100冊ほどお届けしてから6カ月。みにみにとしょかんを利用してくれた子どもたちの声をご紹介します。



『もっと小学生むけの本をおいてくれるとうれしいです。女の子が大好きなお話や女の子の心をはぐくむ本は、とってもいい本でした。もっと種類をたすといいと思います。入院していて、ひまなときにここに本があって、ひまがつぶれるからたのしいです。』

『「100かいだてのいえ」の本をおいてください!あと「ぐるんぱのようちえん」もおいてください!』

これからも、入院生活を少しの間忘れられる、楽しい本を用意したいと思います。3か月ごとに新しい本に入れ替え、子どもたちの要望に応じていきます。

問合せ 中央図書館 ☎553・3111

福生市青少年海外派遣OBOG会の活動を紹介します!

福生市では、将来、国際的な視野に立って活躍できる人材の育成を図ることを目的として、毎年夏休み期間中に、「青少年海外派遣事業」として、中学生を海外に派遣しています。

今までの派遣生約50人で構成するOBOG会では、ふっさ輝きフェスティバルや福生七夕まつりなどのイベントへの協力の他、福生市基本構想審議会、魅力あるまちづくりシンポジウムに委員を送るなどして、海外派遣で得た貴重な体験を活かして、福生市のまちづくりに貢献しています。

問合せ 生涯学習推進課
地域教育支援係
☎551・1958



ふっさ輝きフェスティバルに参加

茶室「福庵」にお越しください

◆お茶席体験

新春を迎え心あたらたに、茶室「福庵」で気軽に茶道を体験してみませんか。
日時 1月13日(日)2月10日(日)2月24日(日)曜日
午前10時〜午後3時
場所 茶室「福庵」立礼席
定員 当日先着25人
※直接会場へお越しください。
費用 300円(茶菓子代)

◆体験!日本の文化 新春の調べ

新年の幕開けを箏の音色で祝います。箏の歴史や楽器の特徴などの話も織り交ぜながら、和の世界へ招待します。
日時 1月13日(日) 午後1時〜2時
定員 当日先着35人
※直接会場へお越しください。
演奏 石田博井氏(山田流)

問合せ 公民館事務所(さくら会館内)
☎552・2118

小・中学校全校で 学校支援地域組織が開設

各学校の学校支援コーディネーターが、学校の教育的ニーズと、地域の方々や保護者などの学校支援パートナー(ボランティア)とを結びつけ、福生市の学校教育を支援する「学校支援地域組織事業」は、平成23年度から始まり、昨年10月に市内全小中学校で開設が完了しました。現在、学校の教育的ニーズに応じて授業支援や環境整備支援等をしてくださる、学校支援サポーター(ボランティア)を募集しています。皆さんのご協力をお願いします。

問合せ 生涯学習推進課
地域教育支援係
☎551・1958

「石川彌八郎家所蔵文書」が 新規文化財として登録されました

福生市教育委員会では、平成24年11月に、熊川地区で酒造業を営む石川家に伝わる古文書等を、市登録有形文化財として登録しました。

石川家は旧熊川村で名主を勤めており、江戸時代から昭和初期にかけての旧熊川村に関する資料や、酒造業を中心とした地域経済の様子を伝える多くの資料が残されていました。平成25年度中に、旧熊川村の様子をうかがい知る文書等の展示も予定しています。

これからも地域の歴史を語る

文化財の保護に努めてまいります。
問合せ 生涯学習推進課
文化財係
☎530・1120

福生野球場管理棟が リニューアルします

福生野球場管理棟の改良工事を平成24年12月から平成25年2月末の期間で行います。

工事期間中、管理棟は利用できませんので、使用申請は中央体育館窓口でお願いします。
問合せ スポーツ推進課
(中央体育館内)
☎552・5511

福生市登録文化財シリーズ③ 「高崎治平翁頌徳碑」

今号では福生市大字福生1300番(福生神明社北隣)にある、福生市登録文化財(有形文化財)「高崎治平翁頌徳碑」を紹介いたします。この碑で讃えられている

高崎治平は、養蚕業を通して福生の産業振興に尽力した人物で、江戸末期の安政2年(1855年)、旧福生村に生まれます。

彼は明治の不況期における地元農民層の貧しい暮らしに心を痛め、その打開策を養蚕業の振興に求めました。蚕の品種改良に取り組み、改良種を希望者に無償で配布したり、蚕の餌とするための桑園開墾

蚕の疫病防止のための顕微鏡購入や検査法の普及など、私費を投じて養蚕業の向上に努めます。そして、多摩の有志と共同での蚕糸業組合の設立や、養蚕業の技術指導などを行う「成進社」の設立に尽力するなど、この地方独自の技術の確立を成し遂げ、地域の発展に大きく寄与しました。

明治13年(1880年)には政府よりこれらの社会貢献に対して「緑綬褒章」が授与されます。この後も養蚕関係はもろろのこと、学校への寄付や地震被災者への見舞金、赤十字運動など、多くの善行を続けました。

「高崎治平翁頌徳碑」は彼の偉業を讃え、昭和11年(1936年)に成進社関係者及び有志一同により建てられ、平成5年に福生市の登録文化財となりました。



高崎治平翁頌徳碑



高崎治平翁肖像

問合せ 生涯学習推進課
文化財係
☎530・1120

